

# 東京教区時報

第1016号  
2006年12月3日発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nsk.org](mailto:comm.tko@nsk.org)  
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇12月の代禱・信施奉献先  
▽聖書の主日(降臨節第2主日)▽世界エイズデー▽聖救主福祉会のため▽部落解放キリスト者運動のため

◇堅信受領

11月19日 聖マルチン教会で  
▽斎藤千景(聖マルチン)  
11月26日 東京諸聖徒教会で  
▽菅原美紀▽榎谷雪(諸聖徒)

◆とこしえの平安

9月14日 倉田 芳郎(79) 聖テモテ  
11月9日 守山 正江(91)  
11月18日 久賀 吾朗(67) 聖十字  
11月18日 桑原 良祐(55) 池袋  
11月18日 目白

今週・来週の予定

12月3日~16日

- 3(日) 降臨節第1主日  
主教巡回 池袋聖公会  
エイズデー記念礼拝  
(聖バルナバ)
- 4(月) 聖職試験委員会
- 5(火) 外濠G 牧師協議会(聖テモテ)
- 6(水) エルサレム教区協働委員会
- 7(木) 教区企画室・財政合同委員会  
下町G 牧師協議会(聖ルカ)
- 8(金) 職員会議  
広報委員会
- 10(日) 降臨節第2主日  
主教巡回 小金井聖公会
- 11(月) 幼稚園委員会  
聖職養成委員会
- 12(火) 銀座朝禱会
- 13(水) 信仰と生活委員会  
礼拝音楽委員会
- 15(金) 公開説教(主教座)  
財政委員会  
主教座聖堂活動委員会  
信徒講座「教会改革の足跡」

11月20日 梅本 妙(87) 聖十字  
11月21日 堀田 健(80)  
11月22日 渡邊 武子(90)  
11月25日 小泉 準蔵(87) 聖アンデレ  
11月25日 聖アンデレ  
▽銀座朝禱会の今年最後の集まり、通算第696回目が12月12日(火)7時半から銀座集会所で行なわれる。感話担当は笹森田鶴司祭(神愛教会牧師)。  
会場などの照会は世話人BSA宛に電話で03(34336)4325。

少し前のことになりましたが、初秋の9月22日に猛烈な台風14号が小笠原を襲いました。この日、島の人々はそれぞれ台風養生をがっちりど済ませて夜を迎えました。私もいつもより早めに食事や風呂を済ませたりしているうちに外は次第に雨風を強めていき、夜の10時には停電になりました。不安な気持ちのまま布団の中に入り、暗い部屋の中でひっそりと息を潜めま

す。風がさらに強まり、まるで大きな塊のようになって「ドーン」と建物に体当たりしてきます。そのたびに家が揺れ、とても安眠などできそうにありません。すぐお隣のお宅の洗濯機が飛んでいく気配がして、その後も外を様々なものが飛ばされていく音が聞こ

——《恵みに生かされて》——

## 台風14号

宮川 京子

えてきます。私は部屋の中で何度も祈りました。

普段の生活の中で「忙しい」という理由をつけて祈ることを疎かにしがちです。嵐で停電した家の中で私は祈ることしかできませんでしたが、傲慢な自分を省み、そして静かに祈り、神様の時間を待ちました。一夜あけて嵐が過ぎ去った後の様子は、あちこちで樹木や家屋の倒壊がありすっきり様変わりしていましたが、幸いなことに死傷者もなく全員無事でした。良い気候を「天の恵み」ということも多いですが、「地は主の慈しみに満ちている」(詩篇33・5)とお祈り、嵐の中にあっても私たちは神様の恵みの中に生かされています。

(小笠原聖ジョージ教会信徒)

(この用紙は再生紙を使っています)

## 秋の教区会を終わる

## 活動計画と予算審議

東京教区第一〇三(定期)教区会は11月23日(木・休)に開催された。午前9時からの聖アンデレ主教座聖堂における聖餐式に始まり、会場を聖アンデレホールに移して10時過ぎ、点呼を経て開会宣言された。植田仁太郎教区主教が議長を務め、書記には山野繁子司祭、須賀義和執事があつた。出席は教役者議員42人中38人、信徒代議員71人中64人(いずれも午後の第2回点呼時)、他に番外議員、職員ら10数人。明春、卒業予定の神学生4人が終始、補助書記の奉仕をした。

議長による開会演説(時報別刷り版で特集予定)に続き、各

委員会の07年度の活動計画が報告され承認された。今回の議案は1件、07年度予算の審議承認であった。07年度は、教役者の人員増が見込まれることもあり、特別会計の伝道牧会資金からの取り崩しと、各委員会の会議の際に支出される経費の削減等により支出抑制をはかることが説明された。審議の過程で、現在の教区の財政と分担金制の見直し、その改善策、また教区の宣教方策について信徒代議員、教役者議員から様々な意見が出され、それぞれの教会の現状に対する熱い思いを分かち合う機会となった。予算案は原案通り承認され(昨年度比5%弱増、3億余円)、15時前、予定時刻より早く終了した。

## 正義と平和協議会運営

## 委員会報告(11月27日)

\*オウルリムの旅報告書作成  
およびオウルリムの会発足の報告と企画などの協議

\*次回協議会の開催企画(11月13日(土) 14~16時

\*任期満了にともなう運営委員および新議長の選出など協議会アジェンダについて協議

\*教区施行規則、運営規約の改訂案の協議

## 3 執事の公開説教

司祭試験の一環となる公開説教が12月15日(金) 18時から、聖アンデレ主教座聖堂で行なわれる。説教者は石坂みゑ子・神崎和子・李民洙の3執事、聖職試験委員会では多数来聴をと呼びかけている。

## 【教会グループ協議会報告・今年の活動から】

## 3 下町

今年も、恒例のプログラムにどのような意味づけをするかが課題となった。3月の下町大空襲記念礼拝はキリスト者平和ネット共同代表の鈴木怜子さんを迎え、ご家族を交えた空襲体験を伺った。本郷教会に住んでいて直接、被害に遭わなかったが、子ども心に焼夷弾の落ちてくるのを見て星が落ちてくるような美しさだったと感じ、それ故その後ずっと星を見るのが怖かったという。幼い心が傷つけられる怖さを知った。

第3回となる下町研修会・納涼会では9月に、神田キリスト教会でバーンサバイの活動をされている青木恵美子さんのお話を聴いた。

タイでエイズ患者やHIV陽性者のための共同生活施設を運営されており、共同生活の様子や現地でいかに理解を得ていくかをユーモアを交えて話された。活動のきっかけとなったのはささやかなことで、それは私にもすぐに体験できることだった。そのきっかけを自分のものとして活動を続けてこられ、自分の家族を語るように患者たちを語る熱意は、参加者50名余に伝わった。

神愛教会と浅草聖ヨハネ教会で創立記念礼拝が行われた。その礼拝の志向するところも企画、プログラムでも、「主の平和」を願うことが常に底流としてあったと思う。これからも心して祈り続けなければならぬ。

幹事教会、神愛教会 渡辺定夫

## 《今、この教会では…》

## 東京聖三一教会

恒例のクリスマスコンサート、ミニバザーなどイベントも目白押しの12月、5名もの子どもを含む8名の方々、洗礼、堅信の恵みに与ります。またイヴ礼拝の中で日曜学校の子どもたちがページェントを行い、ともに祈ります。子どもの声が溢れる礼拝は、無条件に平和で、和やかな空気に包まれます。少子高齢化という社会の縮図にありながら、若いも若きも、誰もがそれぞれに与えられた賜物を、喜んで捧げられる教会でありたいと願っています。喜びの季節、様々な働きの中で慌しくはありますが、わが教会は豊かな捧げ物で溢れます。

(高橋 牧)